

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-エ	学びと生きがいを支える多様な生涯学習環境の充実	施 策	②生涯学習機会の充実
			施策の小項目名	〇人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進
主な取組	県立博物館・美術館「移動博物館」の開催		対応する成果指標	生涯学習講座のサテライト施設数
施策の方向	・沖縄県立博物館・美術館による「移動博物館」の実施や沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習を通して、人々の心に潤いを与え、生きがいをもたらし、人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
指定管理者と連携した教育普及活動の一環として、博物館・美術館に日常的に来館することが困難な県内の離島・遠隔地の方々を対象に、沖縄の自然・歴史・文化・芸術等への理解を深めるための移動展を実施する。	県,指定管理者	地域ゆかりの作品・文化財等の展示計画・実施		
		離島・本島遠隔地における移動展の来場者数(累計)		
		100人	100人(200人)	100人(300人)
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【 098-866-2768 】		関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	-			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	
		県単等	その他	

令和5年度活動内容

令和6年1月に国頭村で開催した。開催地から要望のある恐竜骨格標本等の各種資料を展示するとともに、ワークショップ・体験教室等も開催した。

(単位：千円)

予算事業名	-		
R6年度			
主な財源	実施方法		当初予算額
県単等	その他	8,650	

令和6年度活動計画

令和7年1月に多良間村で開催する。開催地から要望のある恐竜骨格標本等の各種資料を展示するとともに、ワークショップ・体験教室等も開催する。

活動指標名	離島・本島遠隔地における移動展の来場者数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	—	496人	390人（886人）	100人（200人）	100.0%	順調	

国頭村教育委員会や指定管理者と連携し、恐竜骨格標本や各分野の資料計87点を展示した。国頭村の映像や民話を会場内で上映した。館長講演、ワークショップ、開催地と連携したフィールドツアー等も同時に実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
3日間の開催期間中に開催地の国頭村の人口約4500人のおよそ11人に1人の延べ390名が来場し、展示・関連催事ともに大変好評であった。 390名の内訳は下記のとおりである。 (展示室245名、館長講演に15名、展示解説会に53名、5つの関連催事77名)	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○移動博物館の持続的な開催のために、効率的・効果的な実施形態、運営・開催方法を検討する。 ○移動博物館の趣旨目的と開催地からの要望を踏まえつつ、展示資料の精選をさらに行うとともに、人員をさらに効率的に配置するなど工夫する。 ○開催地の県民ニーズに答えるべく、過去と同規模開催を行えるよう効率的・効果的な開催方法を検討する。	○移動博物館の持続的な開催のために、効率的・効果的な実施形態、運営・開催方法を工夫して開催した。 ○移動博物館の趣旨目的と開催地や県民からの要望を踏まえつつ、展示資料を87点に精選し、人員についても、効率的配置となるよう工夫し開催した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	国頭村教育委員会や指定管理者と連携を取りながら、スタッフの効率的・効果的な配置を行うなど、運営を工夫しながら開催した。	① 執行体制の改善	移動博物館の持続的な開催のために、より効率的・効果的な実施形態・運営について、開催地の教育委員会や指定管理者とともに連携を取りながら、引き続き検討・協議する。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	離島・へき地での開催は2巡目となり、過去の大規模な展示を希望する声が多い。一方で展示資料の輸送費は、社会情勢により高騰しており、過去と同規模の展示を行うことが困難になりつつある。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	展示資料の精選を行うと同時に、開催地の県民ニーズに可能な限り応えられるよう効率的・効果的な開催方法・展示内容について、開催地の教育委員会や指定管理者と連携を取りながら、引き続き検討・協議する。
		④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-エ	学びと生きがいを支える多様な生涯学習環境の充実	施 策	②生涯学習機会の充実
			施策の小項目名	〇人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進
主な取組	沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習		対応する成果指標	生涯学習講座のサテライト施設数
施策の方向	・沖縄県立博物館・美術館による「移動博物館」の実施や沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習を通して、人々の心に潤いを与え、生きがいをもたらし、人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
指定管理者と連携した教育普及活動の一環として、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会の提供を目的に、沖縄の自然や歴史、文化等と結び付けた体験学習等を実施する。	県,指定管理者	体験学習プログラムの編成・実施		
		体験ワークショップ、フィールドワーク等を通じた学びの場の提供回数(累計)		
		13回	18回(31回)	18回(49回)
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【 098-866-2768 】		関連URL	—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

—

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

その他

3, 134

3, 042

令和5年度活動内容

夏休みの体験型ワークショップ・子どもフェスタ、外部講師の文化講座・学芸員講座（年間各12回開催）、体験講座等（年間3件以上）を開催した。

予算事業名

—

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

その他

3, 995

令和6年度活動計画

夏休みの体験型ワークショップ・子どもフェスタ、外部講師の文化講座・学芸員講座（年間各12回開催）、体験講座等（年間3件以上）を開催する。

活動指標名

体験ワークショップ、フィールドワーク等を通した学びの場の提供回数（累計）

R5年度

進捗状況

活動概要

実績値

R3年度

R4年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

—

74回

116回（190回）

18回（31回）

100. 0%

順調

夏休みに向けての学芸員による体験型ワークショップ・子どもフェスタ、外部講師による文化講座・学芸員講座（年間各12回）等を実施した。そのほか、展覧会関連体験講座等を実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
コロナ禍が終息し体験型ワークショップや等のニーズは増加傾向にあり、特に8月以降、その傾向は顕著で参加者数も大幅に増加した。県民ニーズに応えるため開催回数をコロナ禍前の平常時まで増やすなどして対応した。各催事の開催回数（計116回）の内訳は次のとおりである。体験型ワークショップ等28回、文化講座・学芸員講座24回、展覧会関連体験講座等10回、展示解説会・バックヤードツアー34回、民具体験20回。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の実施改善案	反映状況
○コロナ禍が終息したため、コロナ禍前の平常時と同規模の下記催事を企画・運営するとともに、指定管理者の協力のもと、広報物配布先やSNS等を活用した催事の広報・周知方法を改善・強化する（夏休み・冬休みの企画展等と連動した体験講座等、指定管理者の自主企画催事等と連携した体験型ワークショップ）	○体験学習に対する県民のニーズの高まりに応えるべく企画・運営、広報したことにより、体験教室等の学びの場の提供回数は大幅に増加した。

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	コロナ禍が完全に終息し、各種講座・体験教室等のニーズは高まっている。今後もこの傾向は続くと推測される。	⑥ 変化に対応した取組の改善	高まる県民のニーズに応えるため、より質の高い各種講座・体験教室となるよう実施内容の充実を図る。